

令和5年 Beach Clean Project 活動報告

弓削中学校 3年生

昨年度、弓削中学校3年生が行ったBeach Clean Projectを、今年も3年生が引き継ぎ、夏休み中に活動を実施しました。その内容を報告します。

【Beach Clean Projectとは】

「美sea(うつくしー)を未来に残そう」をキャッチフレーズに、松原海水浴場に海洋ゴミ専用の回収箱を設置し、訪れた人たちに海洋ゴミを拾ってもらおう、という活動です。この活動を通して、ふるさとの海を守り、将来も幸せに暮らせる上島町をつくりたいという思いで、昨年度、弓削中学校3年生がこの活動を企画、実行しました。

「後輩たちにこの活動を受け継いでもらいたい」という先輩たちの思いを受け継いで、今年も弓削中学校3年生が実施することにしました。設置期間は7月15日から8月31日で、中学生が週に2回、回収箱「あつめるくん」の点検とゴミの回収を行いました。

事前に浜都のゴミ収集所を利用させていただけるようお願いし、回収したゴミは、当番がそこに持っていきました。収集所に持っていく際には、役場からいただいたボランティア用のゴミ袋を使わせてもらいました。

【活動内容の見直し】

活動を始めるにあたり、昨年度の活動の課題について、改善案を話し合いました。

- | |
|----------------------------------|
| 課題1 参加者を増やすための設置場所の見直し |
| 課題2 参加者を増やすための宣伝方法の見直し |
| 課題3 環境問題に対する啓発 |
| 課題4 「海洋ゴミのみを回収する」というルールを守ってもらう工夫 |

課題1 設置場所の見直しについて

昨年度は、役場の方と相談し、キャンプで出たゴミを捨てられないよう、有料キャンプ場から離れた、浜都側に設置しました。その結果、回収できたゴミの量は予想より少ないものでした。そこで、今年は目につきやすい松原海水浴場の真ん中あたりに設置することにしました。



課題2 宣伝方法の見直しについて

地域の方に BCP の活動を知ってもらうために、昨年度は、Beach Clean Project の目的や回収箱の設置場所、ルールなどを記載したパンフレットを作成し、弓削地区の広報に挟んで配布していただきました。今年は、地域の方に中学生が直接働きかけたいと考え、地域のイベントの中で Beach Clean Project を PR することを計画しました。その際、実際に回収箱を披露できるよう、昨年度より設置を早めました。そこで、高校生が企画した海岸清掃イベント、「さんまレース」に向けての海岸清掃とイベント当日、中学生が活動の目的や内容を書いたフリップを持参し、地域の方の前で PR を行いました。



休日の活動であるため、中学生は自主参加となりましたが、全員どこかの活動に参加し、PR と清掃活動を行いました。

その他に、上島町 CATV で職場体験学習を行った生徒が中学校のイベント取材しに来た際に、Beach Clean Project の PR を撮影していただき、CM として CATV で放映していただきました。また、その動画と生徒が作成したパンフレットを使って、夏休み前に小学校でも活動を紹介していただきました。

課題3 環境問題に対する啓発について

この課題についての改善は十分できませんでした。

課題4 「海洋ゴミのみを回収する」というルールを守ってもらう工夫について

回収箱の設置場所をキャンプ場や人々が泳ぐ場所の近くにしたことで、利用する人が増え、ルール違反のゴミも増えることが予想されました。その対策として、宣伝の中で「海洋ゴミのみを回収すること」や「中学生が自主的にこの活動を行っていること」をアピールすることにしました。

【回収活動の実際】

月曜日と木曜日の週に2回、中学生が当番で松原海水浴場に行き、回収箱のチェックとゴミの回収を行いました。砂浜に落ちているゴミを拾いながら回収箱まで行き、回収箱や中のゴミの様子を写真に収めます。その後、回収されたゴミを専用のゴミ袋に移し替え、近くのゴミステーションに運びます。分別が間違っているものが分かるように、回収箱には透明のゴミ袋を使用していますが、専用ゴミ袋に移し替える際にもチェックしました。

週末や海が荒れた日の後は、回収箱に入りきれないゴミが回収箱の横に置かれていました。これは、回収した日と回収されたゴミの量です。

7月19日(水)	可燃ごみ 2袋、流木(役場に連絡し、回収していただいた)
7月20日(木)	可燃ごみ 1袋
7月24日(月)	可燃ごみ 1袋 (スイカ半玉が直に捨てられていた)
7月27日(木)	可燃ごみ 1袋、カン 1袋
7月31日(月)	可燃ごみ 1袋
8月 3日(木)	可燃ごみ 2袋、カン 1袋
8月 8日(火)	可燃ごみ 3袋
8月14日(月)	可燃ごみ 3袋
8月17日(木)	可燃ごみ 1袋
8月21日(月)	可燃ごみ 3袋
8月28日(月)	可燃ごみ 2袋
9月 1日(金)	可燃ごみ 6袋、カン 1袋、ビン 2分1袋、金属類 少量 流木(役場に連絡し、回収していただいた)

【回収したゴミの様子】

回収したゴミの中で最も多かったのは、「可燃ごみ」、次は「缶」でした。昨年度同様、金属やビンはさほど多くありませんでした。そして、回収されたものの多くは、正しく分別されていると感じました。

	多かったもの	印象に残ったもの
可燃ごみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトル ・弁当や総菜の容器 ・発泡スチロール ・小さなビニール片 	<ul style="list-style-type: none"> ・スイカ半玉 ・中国製のペットボトル ・漂白剤の容器 ・冷蔵庫
カン	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコール類のもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・スプレー缶
ビン	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコール類のもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・農薬の空き瓶
その他金属類		<ul style="list-style-type: none"> ・蛍光灯

ペットボトル、総菜や弁当の容器は、その場で飲んだり食べたりした後に捨てられたと思われるものもありましたが、海洋ゴミとして砂浜に流れ着いたものが多く回収されていました。中身が残ったまま捨てられたものもありました。台風など海が荒れた後に特にペットボトルが回収されていました。

また、中国製のペットボトルが流れ着いていたことや、蛍光灯や漂白剤、農薬の容器などの危険なものも回収されていたことに驚きました。一番衝撃的だったのは、夏休みに入って最初の週末の後、半分に割られたスイカがそのまま可燃ごみの中に入れられていたことです。明らかに流れ着いたものではなく、その場でスイカ割りをした後、残ったものを入れたようでした。人目につきやすい場所に設置場所を変えたことで、ルール違反のゴミも増えるであろうと予想はしていましたが……。そこで、私たちの悲しく、残念な気持ちを伝えるために、次のようなメッセージを回収箱に掲示しました。

「あつめるくん」 日記

7月20日 (木)



「燃やせるゴミ」の中は、3分の2が「海洋ゴミを拾ったもの」、3分の1が「その場で出た(であろう)ゴミ(=ルール違反)」でした。悲しいです。

この日は、回収した「燃やせるゴミ」1袋分をゴミステーションに持っていきました。



回収箱に入らない大きなゴミは、役場に連絡して、回収していただきました。

7月24日 (月)



スイカ割りの残骸
…(; ω ;)ウワ

その場で飲んだであろう飲み物のペットボトル
(; ω ;)ウワ…

私たち中学生は、回収箱の中のゴミを「燃やせるゴミ」の袋に入れ替えて、ゴミステーションに持っていきます。

みなさん、想像してみてください！「人が捨てたスイカ(残飯)」を袋に入れ替えるときの私たちの気持ちを…。

もう一度、お願いします！この回収箱は「海洋ゴミ専用」です。自分が出したゴミは、自分で持ち帰りましょう。

このメッセージの効果があったのか、それ以降、ルール違反のゴミは少し減ったように感じました。次の写真は、回収した際に撮影したものです。





回収されたゴミの量は、次のような結果になりました。

	令和5年(48日間)	令和4年(42日間)
可燃ごみ	26袋	4袋
カン	3袋	1袋
ビン	1/2袋	1/4袋
金属類	少量	少量

【考察】

昨年度と比較すると、可燃ごみの回収量が大幅に増えたことがわかります。その理由を次のように考えました。

- 2年目(2回目)の活動あるから。
- 地域のイベントでPRしたり、CATVでCMを放映したりしたことで、色々な世代の人に活動を知ってもらえたから。
⇒その結果、地域の方々の協力が増え、海洋ゴミの回収量が増えた。
- 人目に付きやすい場所に設置場所を変えたから。
- コロナが収まり、海水浴場を訪れる人が増えたから。
⇒その結果、ルール違反のゴミ(その場で出たゴミ)も増えた。

海洋ゴミだけが集められた小さなゴミ袋がいくつも入っていたことや流れ着いたペットボトルが回収箱に入りきらず、そばにきちんとまとめて置かれていることが何度もありました。また、「散歩のついでに」とゴミを拾っている地域の方に出会うこともありました。これらのことから、BCPの活動に協力してくれた地域の方々がいたこと、そして、その数が増えたことが伺えました。

【成果】

私たち弓削中3年生は、Beach Clean Projectを通して、上島町の海辺の環境の改善向上を図ることを目的として活動した結果、次のような成果を得ることができました。

- 海洋ゴミを地域の方に拾ってもらい、それを回収することで、松原海水浴場の環境保全に協力することができた。
- 自分自身も環境問題に関心を持つようになり、個人的にもゴミを拾いに行くことができた。
- PR活動を通して、相手に分かりやすく説明することを意識するようになった。
- 回収されたゴミの分別を確認しながらゴミ袋に移し替え、回収場所までもっていく作業を通して、「ゴミを出すこと(減らすこと)」について考えるようになった。

【課題】

昨年度より回収したゴミの量は増えてましたが、海洋ゴミの回収量が増えたことは、「海に捨てられているゴミの量が多い」ことでもあります。「回収する」と同時に、「捨てさせない」活動も行っていく必要があります。

また、回収したゴミの量が増えたことで、ルール違反のゴミの量も増えました。ルールを守って回収箱を使用してもらう工夫が必要です。

【最後に】

この活動を通して、私たちの感じたこと、気付いたことの一部を紹介します。

- 思った以上にゴミが落ちていて、危険そうなものもあって驚いた。
- 自分たちが直接、地域の人たちの前でPRしたり、CMを作ったりしたことで、協力が増えたのだと思う。
- 「回収で集まったゴミがそのままにされていたら…」と考えると、この活動は少しでも環境のためになったと思う。
- 海洋ゴミが問題になっていることは知っていたが、その問題は自分が思っているよりもかなり大きいものだと分かった。
- この活動を多くの人に広げて、ゴミを拾う意識ができればいいと思う。
- この活動を通して、みんなが楽しく安全に過ごすためには、誰かの、見えないところでの小さな行動が必要だということに気付いた。
- これからも積極的にゴミを拾ったり、ボランティア活動に参加したりしていきたい。

